（４）①様式第４号－２（報告書）

NITS カフェ報告書 ※機構記入欄 No. ：　-	実施機関名・連携機関名 実施機関名：福井大学連合教職開発研究科（福井大学連合教職大学院） 連携機関名：福井県教育委員会、福井市明倫中学校 セミナー名：【NITS カフェ in FUKUI】 主タイトル：主体的・対話的で深い学び 副タイトル：「深い学び」の具現化の手立て

テーマ：

今回の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善が求められている。しかし、「深い学び」については、具体的な学びの姿とは、それを実現するための授業づくりの視点は何か、といった現場の声が多くある。 そこで本 NITS カフェでは、少人数グループを編成し、授業分析を行ったり、実践事例を基に「深い学び」に関して懇談したり、実践をするなかでのそれぞれの学校での課題を出し合ったりすることを通して、参加者が「深い学び」について考えることをテーマとした。

参加者数：48 名（詳細別紙参照）

内容：

第１部は「深い学び」を考えるワークショップ、「深い学び」の授業実践例の紹介があった。第２部は、福井市明倫中学校、京都市立下京中学校、岡崎市立新香山中学校、能美市立辰口中学校の実践発表を行った。そして、國學院教授田村学氏がコーディネートのもと、「深い学び」の具体化の手立てについて話し合い、その後、田村氏から授業づくりのポイントについての講義が行った。

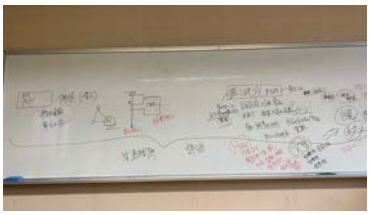
【第１部】「実践を通して『深い学び』を考える」の概要
（担当　教職員支援機構　次世代教育推進センター　研修協力員　宮迫　隆浩　氏）
小学校 6 年社会科「武士の世の中へ」の授業で、ある子どもの振り返りは量、質ともに変わった。それは講義形式ではなく、子どもたちに考えさせていく授業であった。他の子どものつぶやきや発言によって、ある子どもの質が高まっていることを見取ることができる。授業分析をすることで「深い学び」を考えることができる。「深い学び」は、①知識・技能が実生活で生かされている場面がある学び②専門家が「知」を探究する場面の追体験のような学びであると考える。しかし①は、課題に取り入れるだけではない。
②の授業実践例を紹介すると、理科の授業で教師がお膳立てした実験ではなく、実験方法から子ども自身が考える実験である。

【第２部】
○ 福井市明倫中学校
「深い学び」の実現に向けて、授業づくりでは全体共有後の二つ目の仕かけ「第二の発問」を今年度の研究内容の一つとした。グループから出た考えの発表で終わらせるのではなく、「第二の発問」によって、知識を構造化させ、「深い学び」の実現になると考えたからである。
○ 京都市立下京中学校
単元を通して繰り返し考える価値のある問いを「本質的な問い」とし、３つの視点で本質的な問いを創ることにした。①生活と関連する本質的な問い ②概念的な理解とつながる本質的な問い ③方法論ともとにした本質的な問い である。「本質的な問い」は、教員間で共通理解を図ることが難しい面があり、「単元と貫く問い」とすることで共通理解を図ることができた。
○ 岡崎市立新香山中学校
総合的な学習の時間に関連付けた各教科のカリキュラムの工夫する、MDT や授業に振り返りの場を取り入れる、思考ツールや ICT の工夫を研究の手立てとした。授業研究会では、プロセスイメージをしっかりもち授業計画すること、板書で生徒の思考の可視化することについて助言していただいた。
○能美市辰口中学校
生徒の活動や思考の流れを中心にした授業づくり、学び手に寄り添う教師の手立て、ねらいと関連

付ける振り返りを研究内容とした。また総合的な学習の時間では、課題研究を行っている。3 年間を通して１，２年の学びを活かしている生徒も見られた。

＜全体討議＞　＊参加者からの質問をもとに、以下のような柱で討議が進められた。（主な意見）

①どのような振り返りをするとよいか。
・生徒が自分自身のこととして受け止めることができる。　・自分の変容に気づく。　・次につながる。
・「わかった。」と自覚できる。
②なぜ振り返りは大事なのか。
・文字に表すことで残る。　・自分の思考の過程が認識できる。　・熟考の時間になる。
・全員で共有できる。
③「思考力・判断力・表現力」の資質能力を育てる授業では具体的にどのような振り返りをしているか。
・英語では 5w1H を使う。　・字数を制限する（○字以上、一言で）
・条件をつける（～をつかって書きなさい）。



＜講義＞　國學院大学教授　田村　学　氏

獲得しておかないといけない知識を「粒」、構造化されたもの（期待する子どもの姿や振り返りでの言葉を「塊」とすると、「粒」をどう組み立てるか、どう向かわせるかが、教科の本質である。「塊」を教師が自覚してできると授業設計がクリアになる。

成果： 本懇談会のアンケートより

【第１部】
・授業分析を通して、授業前を授業後で生徒はこんなにも発表内容が変わるのだと思った。生徒の発表には、1 時間の授業の中から学んでいることもあるが、単元を通して学んでいることもあった。
・普段の授業のなかでも、見逃してしまっている生徒の言葉やつぶやきがあるかもしれないと思った。普段の授業において、生徒の言葉に敏感に対応できる授業力を身に付けていきたい。
【第２部】
・これまで自分のなかであいまいだった「深い学び」であったが、他の参加者との懇談や田村先生の話から、「深い学び」が腑に落ちた。
・少人数によるグループ討議や全体の場での各先生方との意見の交流では、田村先生の質問に対して一つ一つ自分自身が考え、自分の授業について振り返ることができた。
・各学校の実践をもとに、来年度の研究の方向性の見通しをもつことができた。

アイディアや工夫したこと：

・「主体的・対話的で深い学び」の視点を共通にして４校の取組内容の発表を行った。取組を通しての今後の課題の報告があり、新学習指導要領完全実施に向けて、他校の今後の取組の参考になるようにした。
・田村先生が全体の場で参加者の意見をコーディネートし「深い学び」実現に向けての焦点化を図った。
・職、学校を考慮したグループを編成し、他校の先生との交流が図られるようにした。

＜写真・図など＞

各グループで活発に意見交換が行われました。

各先生方から、積極的な発言がありました。